

戦争への歯車を止めよう 各地で取り組み

戦後70年のこの夏、「戦争法案廃案」の思いを込め、各地で戦争展が取り組まれました。ここでは旭区平和委員会が会長を務める戦争展報告を紹介します。



リーンコーラス。次に母親大会、原水爆禁止世界大会、NPT再検討会議ニューヨーク行動の各報告やDVD「福島は今」の上映などが行われました。展示では、旭区の戦争遺跡、学童疎開に加え、戦争法案、原爆問題、沖縄新基地建設、Xバンドレーダー新基地、戦後70年談話などの新設パネルが関心を呼びました。

「戦後70年、いま平和を考える」と題して2時間近く講演。近代日本の戦争の歴史、戦争でできる国づくりをめぐる動きと廃案への展望、自ら旭区平和委員会会員として平和委員会への期待などを語りました。

「久々に聞いた中田先生のお話、平和への熱情と安倍政権への怒りがひしひしと感じられるお話しぶりに感銘を受けました」

オープニングは市民合唱団が

第14回旭区平和のための戦争展が、8月9日旭区民センター小ホールで開催されました。区内の団体による実行委員会(近藤正会長)の主催によるもの。のべ430人が参加しました。

中田進関西勤労協副会長が



東大阪 (7月25、26日)



港区 (7月24~26日)



八尾 (8月8、9日)

天王寺レッドアクション

天王寺レッドアクションの会と母親連絡会は、終戦70周年にあたる8月15日近鉄上本町駅頭で戦争法案の廃案を呼びかける宣伝行動を実施しました。マイクを持ち「戦争法案あかん」と訴える係、署名版をもって戦争法案の廃案を求める署名係、「『平和憲法』を守ろう千人針」に協力してもらう係、横断幕係などの任務分担のもと宣伝行動を展開。

先に子どもが興味を示し、お母さんが立ち止まって署名に協力してくれました。

レッドアクションの会は、参議院で審議中の戦争法案を何とかして廃案に追い込むため天王寺の女性たちがつくりあげた組織(この会の中では平和委員会



の会員も大活躍)。この間、火・木・土の週3回区内各所で宣伝を行い注目を集めています。

戦争であかん 生野で集かん

「いっしょに声あげよう! 戦争あかん生野大集合」が、7月25日夕刻区内で開かれました。この集会は、生野平和委員会、民商など区内の団体で実行委員会をつくって開いたもの。案内チラシを新聞に折りこむなどして区民に呼びかけた効果もあり、200人が参加しました。

集会では、幼児を連れた母親や戦争体験者、労働組合役員などがそれぞれの立場や体験に基づいて「戦争法案」は許さない強い思いを語り、参加者の大きな共感を呼びました。集会後は「集団的自衛権はいらぬ。忘れてくれるな! 声なき声」を戦争したがる総理はいらぬ」な

今月の言葉「戦争を知らない人間は、半分は子ども」

「この田舎にも朝夕配られて来る新聞紙の報道は、私の最も欲しないこと、つまり戦争をさせようとしているらしい。現代の戦争を操る少数の紳士諸君は、それが利益なのだから別として、再び彼等に欺(だま)されたいらしい人達を私は理解出来ない。恐らく彼等は私が比(フィリピン)島で遭ったような目に遭うほかはあるまい。その時彼等は思い知るであろう。戦争を知らない人間は、半分は子どもである」(大岡昇平『野火』新潮文庫)



どとコールし、沿道からの声援に励まされながら鶴橋北公園までパレードしました。



核兵器禁止世界大会

8月7〜9日、長崎で開かれた原水爆禁止世界大会に参加しました。被爆者と若者、世代、国境を超えて交流し、戦争も核兵器もいらないと確認しあつた大会でした。

1日目の開会式後の青年のつどい RinglinkZERO。恒例のつどいですが、今年はこの企画として初めてデモを行いました。70年前の長崎での原爆投下を2日後にひかえて、被爆者と連帯するサイレントデモです。ジョン・レノンの「イマジン」を流しながら、キャンドルとプラカードで NO WAR NO NUKES を訴えます。長崎県立体育館から眼鏡橋、アーケード街などを一周。拡声機でのコールはありますが、高校生や大学生などが、戦争と核兵器のない世界を街ゆく人によびかけました。

2日目は分科会「アジアの平和と日本の役割」に参加。大学生、若い人の安保法案反対デモなどの取り組みが続々と報告されました。インド労働組合センター全国副議長のジュナン・サンカール・マジウムダールさんは、「今はこんな年齢になってしまったが、労働組合運動を始めたときは24歳だった。日本の若いひとの運動に励まされた」と感想を述べられました。

さらに2日目の夜は、日本平和委員会青年委員会が「起草委員長をかこんでナガサキの港で

カフェ」を開催。全国から40人の青年が参加しました。国際会議宣言をベースにしたクイズで和んだあと、起草委員長の富田宏治先生から国際会議の模様、原水爆禁止世界大会の舞台裏などの紹介もあり、楽しく学ぶ機会になりました。なかまづくりでは、青年会員、新聞購読も増えました。

3日目11時2分、6000人の参加者で黙祷。70年目の8・9を長崎で迎えたわたしたちは、戦争も核兵器もない世界を誓い、改めて被爆者の想いを心に刻みました。閉会集会では大阪代表团もステージへ上がり活躍しました。
(報告)片方真佐子副会長



高校生体験聞く被爆体

高校生平和サークル「たこピー」が7月30日午後平和委員会事務所所で例会を開き、高校生4人(うち会員1人)と中学生1人が天王寺在住の末広千鶴子さんから被爆体験を聞きました。

当時18歳の末広さんは爆心地から2kmで被爆。気がつくとき身



末広さんと高校生たち

てなくなっており、顔の左半分は水ぶくれ、右半分は頭から流れてくる血で引きつっている。頭頂部もやられている様子。末広さんはさすらいを続け、色々な人との出会いに助けられ生き延びました。「原爆は人の命を奪っただけでなく差別などで心まで苦しめるものなんだ。被爆当時の生々しさが伝わってきた。つらかったという言葉だけでは表せないほどの苦しみがあったと思う。人の体をむしばみ、いまだに続く悲しみ、つらさを背負わせる原爆は許せないと思う」(高校生の感想)

この学習会後、高校生たちは8月4日〜6日被爆70年の広島・原水爆禁止世界大会に参加しました。

この秋仲間を増やそう

大阪平和委員会は、8月の常任理事会でこの秋に会員・新聞読者を増やし、「戦争する国」づくりを抗する力と財政基盤の強化を図ることを決定しました。

昨秋、全国に先駆け会員1400人の大台を突破しましたが、今秋の目標は会員1450人、新聞読者1100人です。

このためには会員新聞読者と30人ほどの実増が必要です。大阪平和委員会には、多数の若い会員がいます。事務所はほぼ毎週、第2回大阪青年沖縄ツアー実行委員会や高校生平和サークル「たこピー」例会などのため青年・学生・高校生が出入りしています。平和委員会と事務所があるからこそ、若い人たちの躍動が見られるのです。この秋かけがえのないこの組織を一回り大きくしましょう。

7月戦争法案廃案の取り組みで会員読者を4人増やした西淀川の保育園の三宅直美さんのメッセージはその参考になります。――なんせ、この非常事態に「いつも平和が大事!こどもを守ることが大切!」と言っている私たちが今、出来ることはないのか?さまざまな取り組みに職員を誘う!色々な取り組みに参加してもらい周りの人たちの思いや気持ちを実感してもらおう!そのことを大切にしています。平和を語り、平和の守り手を作る。そのためにも平和委員会の会員になつてもらおう!新聞を読んでもらいたい各地の活動を。この間も会員になつてほしいと何人にも申込書を渡していましたが、又あとから:でそのままもらうことも忘れてしまうので、もらった方もどちらもね:。そこで、ちよつと強引ですが、その場で書いてもらいます。なかなか話をする機会がない職員もいますが、また積極的に声をかけていきます。ひとりでも多く

の平和の担い手を増やしていこうと思えます!

*HP開設約3年でアクセスが11000を超えました!

「平和のつどい」近づく
 ○9月12日(土)13:30~
 ○たかつガーデン3階ローズ
 ○従軍看護婦と戦争遺児が若者に語る
 ○詩の朗読とサックス演奏

日本列島騒然の集會に!
「戦争法案は廃案に!アベ政治を許さない!大阪集會」
 8月30日(日)16:00 ~ 扇町公園

3つの抗議文を小林会長名で送付

- ① 大阪市教委による侵略戦争を美化する教科書採択に抗議する(8月6日)
- ② 川内原発再稼働の強行に抗議し、原発ゼロへの転換を求める(8月12日) *②③は安倍首相に送付
- ③ 沖縄での米軍ヘリ墜落事故に抗議し、普天間基地の閉鎖・撤去、新基地中止を求める(8月15日)

の平和の担い手を増やしていこうと思えます!

「仲間を増やすことはこどもを守ること」(三宅さん)

